

会

報

第3号

早稲田ヨットクラブ

昭和53年7月 発行

発行所 早稲田ヨット
クラブ事務局

会費振込先
第一勧業銀行日本橋支店
普通預金 一四四五三九
口座番号 一四四五三九
ワセダヨットクラブ 近藤光徳

負債一掃へ指向

会費徴収は全員

から を確認

第六回理事会報告

第六回理事会が七月七日(金)、午後六時三十分より、銀座アサヒビルで行なわれました。二月の第五回以来五ヶ月ぶりのことであり、その間いろいろと問題が山積していたこと、及びヨットシーズン中ということもあって小沢会長以下レギュラー十八名、オブザーバー七名、計

一 理事長ごあいさつ

暑中お見舞申し上げます。
皆様方におかれましてはますますご清栄のことと慶賀に存じます。
また常日頃は当クラブにお寄せ下さるご芳情誠にありがとうございます。
早いもので、私が理事長をつとめさせていただいてからすでに一年以上が過ぎ、任期もあと半年を残すばかりとなりました。その間とりたててこれといった業績を残すことも出来ず、誠に申し訳な

二十五名の多士済々がご出席盛り沢山の議題に多くのご意見が寄せられました。先ず議長に渡辺運管担当が推進され、同氏の五十二年(五十二年三月末日迄)運営報告がなされ、前幹事会当時の借金は会員諸氏のご協力によりおむね返済が出来たこと、及び五十三年(五十二年十二月末日迄)の運営方針として旧来よりの岡本造船所の負債約三十万円、稲竜エンジンの積替え工事費六十万円、現役への援助等はあるが何はさておき、今後の活動方針として会費未納者の会員諸兄よりのご協力を得ることが急務であると強調された。

存じておる次第でございますが、幸いにして理事会を中心とした新しい体制が徐々にではありますがまとまりつつあり、これも理事諸氏をはじめ皆様方のご支援によるものと感謝しております。何分とも、久しく停滞状況にあったクラブ活動を自覚めさせると共に、現役への支援も欠かすことが出来ず、それには先ず財政の建て直しを計らねばなりません。時節柄何かと出費のかさむこととは存じますが、よろしくご賢察下さいまして尚一層のご支援賜りますようお願いしてお

続いて五十二年(五十二年三月末日迄)の総会において了承を得る問題であるが、ついでには監査を受けたので監査役名の選出依頼が出された。

会費徴収は全会員からを確認

次に一番問題となる会費徴収の具体案について、①旧来より払う人はほとんどぎまってしまうが、払っていただけない人はどうするのか。②別途寄附行為のあった人は会費を免除するのか。③五年間前払い(前幹事会当時四十八年から五十二年分、年額二千元計一万円を払っていた)の会員は五十二年分を免除する)会費について討議されたが、ここで最も難問となる④に於いて五十二年より全会員年額一百万円の総会決議に基づき、前払い会員はその差額のみ徴収ということになるが、新制度による再スタートという点をご賢察願うと共に、現制度の機

願いする次第でございます。
誠に僭越とは存じましたが、本日現在で会費未納の会員諸氏には事務局より振込用紙を同封させておりますのでよろしく御協力下さいますようお願い申し上げます。
猛暑の折柄、各位様ご自愛専一のもと尚一層のご活躍を祈ります。 敬具
昭和五十三年七月二日
ワセダヨットクラブ
理事長 堀 江 喜 三

能を生かして全会員等しく御協力を賜りたいということと落着いた。即ち前回の理事会報告を第二回会報でお知らせしたあと各位よりの振込を期待しておりましたが経過日数及び残日数からみて米田経理担当理事を中心にして各年代の理事に働きかけていただくということになりました。但し海外在住会員についてはその期間会費納入を免除するという事になりました。

現役の援助五十万円を可決

加藤監督より現役の活動状況及び今後の日程発表がなされ、その中心となるのは八月十三、十四、十五日の三日間、三重県の津市で行なわれる全日本であり、自艇採用のため、艇の運搬費他出場経費がかさむことでもあり、これをうけて渡辺運管担当より当クラブより援助資金として五十万円の贈呈動議が出されたが、クラブ活動の一環として無理からぬ金額でもあり全員一致で可決、可及的すみやかなる会員諸兄の会費納入のご協力を得て執行されることになった。(七月二〇日、贈呈完了しました。)

OB会員章(バッジ)の復活

小沢会長久々のご出席で先ずOBバッジの由来からこれの復活案が出されたが、全く知らないOBもあり、復活する事には基本的に理事会として了承。次にOR諸兄が潮風に吹かれに來ても乗る艇がなかったらという配慮で旧L型に似た

艇(デイ、セイラー)他K16型等備品は整備されていないがこれ等の活用、続いてスター「紺碧」の措置について提案されたが理事会検討事項として受理しました。

原稿集まらず名簿作成遅々として進まず

会員諸氏より名簿の請求が多々ありますが、原稿未提出の理事があり、事務局としては甚だ困っております。殊に社員諸兄の場合、転勤が続きまといまので各年代よく横の連絡をとっていただいで変更があった場合はすみやかに事務局へ知らせて下さい。第二回会報にて住所不明者を問い合わせた結果二名のOBよりご丁寧な連絡をいただきまして非常に有難く感謝しております。といつてもいつまでも待つわけにもいきませんので見切って作業にからねばとも考えております。

尚広告は現在十三件集まっております。今一度のご協力お願い致します。

会報は年度間四回を続行

次に当会報の件ですが、当初の計画では年度間四回ということでスタートしており、好評を得ておりますので今後も続けていきたいと思っております。今回より我がヨットクラブの歴史をシリーズもので連載する企画をたて、その初回として昭和十年代前半を新名氏に書いていただくことになりました。その時そこで何

人が何をどう考えたのか、そして現在あるを通じて各位共々ありし日を想い、今日を行動し、明日を語り合い和気相合たるワセグヨットクラブたるに資していただければ幸いです。

今年こそはの四校OBレース

「とにかくこれまで我がワセグのOBは優勝したことがない」とこれは当日ご出席の舟岡氏の第一声でした。

毎年夏の終り頃に早稲田、慶応、同志社、関西学院、四校のOBレースが当番持ち廻りで行なわれております。今年は早稲田の当番で場所は三戸浜合宿所、九月三十日(土)前夜祭、十月一日(日)レースということとです。世話役代表は杉山氏(初)八八三〇 舟岡氏(88)二二二一(いづれも自宅)です。こぞって参加しましょう。特に若手OBの参加大いに歓迎。一回ぐらい優勝しましょうや。

夏の実技講習始まる

終りに安藤講師より体育局の実技講習が八月二十五日から三十一日迄、千葉県岩井に於いて行なわれます。OB各位には別に宿舎も用意しておりますので多数ご参加下さいとのことでした。

連絡先 安藤講師宅(84)〇七七八

最後になりましたが、当日多数のオブザーバーのご出席、ご意見百出には理事会として厚く御礼申し上げます。今後も多数お誘い合せの上ご出席下さい、いろいろご意見賜りますようお願い申し上げます。

ます。次回理事会は八月七日(月)、銀座アサヒビル(銀座二丁目)四階で午後六時三十分より行ないます。

N・E・W・S

六大学レース優勝

早慶明立法東、つまり野母と同じ編成、四月十五、十六両日、葉山沖で行われた。四七〇級一位、スナイプ級二位で総合優勝。

関東インカレ三位

四月二十九日五月七日森戸沖で挙行、参加チーム 四十七校。三組の予選で十五校が決勝進出。ワセグは 四七〇級三位、スナイプ五位で総合三位、全日本に、両クラス共出場権を得た。参加二十五校各級三艇づつ。

早慶定期戦に勝つ

五月二十六、二十七両日、三戸浜沖にて挙行四七〇級一位スナイプ二位にて総合優勝。杉山先輩(31年度)が運営委員長としてお世話願いました。

早同定期戦・敗る

六月、琵琶湖に遠征。結果は準優勝、つまり敗れました。微風特にベタの走り方に、同ヤンのレベルは優れており、字ぶべきものありと北島先輩(45年卒)の

談。関西OBの皆さんにお世話になりました。ありがとうございます。

ヤールウィークに参加

西ドイツ・ホルルに現役三君が参加しましたこの件については、別欄に三君からの手紙がありますので、詳細省略。尚、クラブより饒別若干進呈した。

現役現況

新人合宿、全日本強化合宿等を消化しつつあり、八月十三、十五日の全日本に備えつつあり、東京発八月五日、現地で練習合宿を行います。若松先輩(40年卒)にお世話になる予定、よろしく。

OB有志、新艇寄附

中堅OBの有志の皆様熱意ある呼びかけにより、レース艇三艇の購入資金を持ちより現役に寄附された。寄附金合計、一八四万円。これで四七〇級二艇(約五〇万円二艇)スナイプ一艇(約七〇万円)その他備品若干を購入した。有志の方々は次の通りにて大口は二〇万円を拠出いただいた方も数人あり。心から御礼申し上げます。

中田(32年)、加藤(33)、並木(34)、菅山(35)、原田、吉田(36)、三沢(37)、倉谷(38)、石井(41)、大原(42)、冬至、尾本(43)、高須(44)、北島、吉岡、大矢木

(45)、武藤、福島、大島、原田、菊池、宮本、藤田(46)、町田、渡辺(47)、矢野(48)、林、坂本(49)、藤井、恒川、青木、近岡(50)、冬至、大島(51)、川瀬、角田、岩崎、星野(52)、光武、野口、齊田、酒井、大原、橋本、目出、渡辺、石川(53) 以上四七名。

沖繩レースに「月光五世」活躍

並木先輩(34年)率いる「月光五世」が念願のファースト・ホームを果たした。四月二十九日十時沖繩那覇港外をスタート、五月三日、潮岬南方通過、五月五日零時二十四分小網代に到着。全航程一五〇〇キロの所要時間は一六三H二五M二五Sでした。

詳細は朝日新聞他で御覧の通り。尚、タイム修正後の順位は、参加二七艇中の四位となった。

「月光五世」は、現在トランス・パシフィックレース他に参加の為、ハワイに向けて航行中にて本紙がお手元にとどく頃は、現地に到着している予定。各新聞のスポーツ欄に注意されたい。

稲電のスケジュール

八月二十三日実技合宿の為、岩井へ廻航。九月一日油壺に帰航します。それ以外油壺をベースとして小型合宿と平行的に基本練習を行っています。OB諸氏の参加を要望します。(稲電委員会)

ワセダヨットクラブ

五二年度会計報告書

昭和五三年五月三日

収入の部		支出の部	
クラブ	454,000	庶務費	129,890
52年度分	394,000	文具費	7,450
53年度分	60,000	送印費	18,100
会費	591,500	印刷費	86,340
議事費	309,000	会議費	18,000
総務費	282,500	総務費	481,450
附金	42,500	理事會	275,000
金庫	24,500	補修費	206,450
印刷費	18,000	宿舎費	20,000
利子	42	稲電会	50,470
合計	1,088,042	稲氏立替金	150,000
		合計	831,820
		合現計	256,232
		合計	1,088,042

右記報告は、会計監査總會審議前でありますので案としてあります。

クラブ史第一回

品川の海は青かった

(昭和十一年—十四年)

昭和十四年 新名 敬一

私が部員であった頃のヨット部の模様を書いてくれた堀江氏の依頼があつて気軽に引き受けてはみたものの、いざ筆をとってみるとなにしろ四十年も昔のことである。まさに往事茫茫として記憶も定かではないが幸いまだ残っている教員の写真と、偶然同じ国分寺市に住んでおられる永元作一氏からうかがった話しな

どをもとに、おぼつかない記憶をたどつてみることにする。私がヨット部に新人として入つたのは、部の創立後一、二年たった昭和十年頃であった。

当時はまだ体育会の部としては認められておらず、小沢信三郎大先輩を中心に藤村、松山、中橋、村瀬、山下、田原、宮川、永元、両角各氏などのヨットを心から愛する諸先輩が集つて、やがて正規の体育会ヨット部たらしむべき下地をつくりあげていた頃であった。従つて我々新人にもそういう諸先輩の意気込みがひしひしと伝つてきた様な気がする。

右諸先輩のうち、中橋、村瀬、山下の三氏は戦死され、両角氏は病気ですでに亡くなられている。特に村瀬先輩とは、早慶戦や関東インターカレッジのレースにクルーとして一諸に出場したから余計思い出が深い。改めて心から御冥福をお祈りする。

当時の部室は、正門から穴八幡へ向かう通りの、たしか永田という運動具店の一隅にあつて机、椅子、ソファーなどを置いた明るい部屋であつた。部員は大体毎日顔を出すことになつていたので、午後になると部屋はいつも満員であつた。大きな黒板にはスケジュールが書かれ、各艇の使用状況が記入されていた。奥の方には諸先輩がいつもがんばつており、われわれ新人は入口に近い方でわいわいやっていた。私など授業をさぼつて顔を出すと、早速藤村村将や中橋さんから「新

名お前今日は練習へ行けるんだろ」などといわけて艇の割当てを受け、しどろしど品川へ出掛けました。当時の品川海はまだ綺麗だった。名前は忘れたが、堀割に面した船宿の桟橋には漁船がたくさん繋がれていて、その一角に真白なスター級一艇と、えび茶花に塗つたデインギー七、八艘が我々を待っていた。

商船学校の練習生が着るような白い練習着に着替えて船宿の倉庫からセイルをかぎ出した。整備をおわり、もやいを解いて、堀割を少し抜けるともう其処が品川の海であつた。風上に艇を向けてセイルをあげる時の緊張感はいまだに忘れられない。練習が特にきつかつたとか、先輩に大いにしごかれたという様な記憶はないが正月の初乗りだけは辛かつた。

合宿は年三、四回あつたが、場所は横浜の本牧が多かつた。当時の本牧海岸には外国船の船員達の間で有名ないわゆるチャップ屋といわれるホテルが二、三十軒も建ち並んでいて、我々はその間を通つて海岸へ出るのだからよく派手な女性の姿に目を奪われたものである。その後少し離れた場所に横浜セーリングクラブが出来て、立派なヨットハーバーが完成したから其処を借りて練習ができるようになった。夏の合宿は専ら三浦半島の長井という海岸で、東電の寮を借りていた様に思う。文字とおり青松白砂の、泳ぐ人もいない綺麗な入江であつた。その砂浜で一日中たわして艇を磨いたこと、小沢大先輩がよく来られて、全員が指導と激

励を受けてふうふういったこと、晩飯のあと、いまは亡き高原君がウクレレを弾きながらハワイアンソングをよく聞かせてくれたことなどがまさに懐かしい青春の思い出として鮮やかによみがえってくる。

ここに一枚の写真がある。部員十二名(藤村、中橋、松山、財部、山下、田原、宮川、永元、永田、植松、新名、名前不詳一名)が部長(お名前を思い出せない)を真中に大隈庭園で撮った写真である。全員丸坊頭で足元には大きな楯一枚と小さきまのキャップがずらりと並んでいる。昭和十一年か十二年かはつきりしないが、恐らく各レースに目覚しい戦果をあげ、晴れて体育会ヨット部に上がった時の記念写真ではないかと思う。みんなの丸坊頭の顔が何んとも懐かしい。また新聞の切り抜きが残っている。

「薫風に走る関東大学専門ヨット大会」という大きな見出しでスタートの写真と各校の戦績が選手名とともに相当なスペースの記事になっている。ただし参加校は早大、慶大、帝大(東大)商船、関東学院の僅か五校である。この五校の外当時ヨット部のあった大学は同志社、東北帝大、九州帝大の三校位ではなかっただろうか。今から思えば全く隔世の感がある。

私は運動神経が鈍いうえに練習もあまり熱心でなかったから各先輩には随分迷惑をおかけしたが、それでも十四年に卒業する最後まで部に残れたのは先輩、同

僚の温い励ましがあったからこそといまだに深く感謝している。

△クラブ史・編集方針▽

小沢会長に伺いますと、当ワセダ・ヨットの発足は、昭和七年との事。すでに四十六歳、会員も四百人に及ぶ大世帯です。各年代の諸先輩に次々に回響していただき、自然にヨット部五拾年史が出来上ることを期待しております。本来、初回を小沢会長にお願いすべきでしたが、そうすると五拾年分書いていただかねばならぬので、あえて第一回は昭和十一年―十四年で始まりまして。次回は小沢会長に戻します。第三回は……どこに飛ばすか目下協議中です。皆さんの書き易い様に順序は、行ったり来たりにしたいと存じます。各年代のチャンピオンをご推せん下さる様お願いします。

キール・ウィーク報告

拝啓
連日、真夏日の続く暑い今日この頃ですが、諸先輩方は如何がお過ごしでしょうか。

僕達(庄島・北川・伊熊)三名は、六月十六日小沢会長、加藤監督、ヨット協会の松本さんはじめ早大ヨット部現役の仲間たちに見送られ、日本をたちました。七月七日無事に帰国しました。三名とも元気でいますし、他の現役も目前に

控えた夏期合宿、全日本インカレへの準備に頑張っています。

僕たちの参加したキールウィークレースは、十六クラス一〇〇艇以上がエントリーしており、特にオリンピッククラスについてはアメリカの四七〇を除くほとんどの国が参加して、その力の入れようは世界選手権にまさるとも劣らぬものと言えましょう。

さて、肝腎の僕たちの成績は九二艇中七八位でした。結果こそ振るいませんでしたが、大変良い勉強になりました。七日間に渡ったレースの内、初日から三日目までは、風力七の強風で、後半は軽風というコンディションでした。日本チームの森、小林組、三船、東島組の二艇は、風が落ちてからは、海面に慣れたせいもあってか、よくすべり連日上位に食い込んでいました。そうした中で、僕たちが特に感じたことは、強風下でのフリーの安定性やスタート後のクロスホルドの圧倒的な速さです。とはいえ、トップグループのセイラーが何か僕達とは違うことをやっているという訳でもなく、一言でいえばレース中基本に忠実であり続けるという事に尽きるかもしれません。

また、同行した前述の二チームの方々からは非常に多くの事を教えていただきました。それらはすべて、日進月歩の四七〇乗りにとって、血となり肉となるものと思われまますから、早速合宿において早大ヨット部の後輩に教え継いでいきたいと思っております。

セールの勉強のため来られた、五十二年卒業の大原義昭先輩も当地で僕ら日本チームに合流し、いろいろ研究なさっていた様です。

なお、出発前に頂きました御餞別の一部は、キールで学んだことを早稲田にも取り入れようと当地で仕入れた織装品の購入に使わせて頂きました。誠に有難うございました。

本年は、全日本インカレが三重県の津で八月十二日から八月十五日にかけて自艇持ち込みのうえ行われます。使い古された言葉かもしれませんが、部員一同本当に今年こそは優勝しようと思いをこめて頑張っています。日頃強まぬ御支援をして下さっているOBの方々の御期待にそむかぬためにも、また僕たち三人にとってはキールウィーク遠征の光栄に傷をつけないためにも必勝の覚悟で津にのりこむ積りでいます。

先輩も、時節柄、御身を大切に下さって下さい。
では、乱筆乱文にて失礼致します。

昭和五十三年七月十一日
早稲田大学ヨット部
三期 伊熊孝雄
敬具

振込先
第一勧業銀行日本橋支店
普通預金、口座番号一四四五七三九
ワセダヨットクラブ 近藤光徳